



三位勲二等男爵野村維章叙勲ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治三十六年五月七日

内閣總理大臣伯爵桂太郎

内閣



賞勳局 勳一等

明治卅六年五月六日

為

内閣總理大臣

外

賞勳局總裁

退職検事三位勳二等男爵野村維章儀
 夙ニ勤王ノ志厚ク維新前後國事ニ盡瘁シ殊ニ
 石田英吉等ト長寄ニ於テ振遠隊ヲ組織シ之ヲ率
 ヒテ奥羽ニ轉戦シ爾後地方官及司法官ニ歴任シ其
 功勞不歟然ルニ目下病氣危篤ノ趣ヲ以テ司法大臣
 敍勲ヲ上奏セリ依テ調査ヲ遂クルニ故男爵石田英吉
 ト同功一體シテ其官途ノ閱歴ニ於テモ餘リ軒輊ナキ
 者ト認メラレ候間石田英吉ノ例モ有之候條特別
 ヲ以テ此際勲一等ニ進メ瑞寶章ヲ授ケラレ度
 此段允裁ヲ仰ク

中一五三

司法省職掌第八九二號

明治三十六年五月六日接奉

退職檢事正三位勲二等男爵野村維章
儀明治元年長崎振遠隊御用裁ヲ申付
ケラレ次テ參謀添役トナリ奧羽ニ轉戦シ爾
來地方官及司法官ニ歷任シ明治三十一年
六月病ヲ以テ東京控訴院檢事長職ヲ
退キタリ其間文武ノ諸官ニ奉仕シ勲勞
不貲殊ニ維新ノ際國事ニ奔走盡瘁
シ其功績顯著ナルヲ以テ男爵ヲ授ケラレシカ目
下病氣危篤ニ付特別ノ御詮議ヲ以テ相當
勲位進メラレ度此段及上奏候也
明治三十六年五月六日

司法大臣男爵清浦奎五



内閣總理大臣伯爵桂 太郎殿

本日退職於事官野村雅三早病來
危篤ニ付律上ヨリ以テ敘位敘職ニ候
上奏候處在安中ノ度思ハレテ
及脚運付ノ間ニ至ルモ計ニ在事
此水乃手付候事

由同才以事奉旨定所从

法總
長官
印

司
法
省

野村維章履歷

維章初ノ辰太郎ト稱シ後子要助ト改ム世々土
州藩士タリ

萬延元年三月櫻田ノ變アリ父龜四郎藩命ヲ以
テ東上スルニ隨ヒ江戸ニ出テ江川太郎左衛門
ニ就キ西洋砲術ヲ學ヒ又大木某ニ就キ洋書ヲ
學フ

文久元年二月藩ニ歸ル
同二年三月藩ニ於テ砲術教授ヲ命セラル
同年九月藩禁關守衛トシテ兵ヲ京師ニ入ル維
章藩命ヲ以テ之ニ赴ク滯京中阪本龍馬ニ三條
ノ旅舎ニ會ヌ龍馬告ク九ニ時勢ノ趨嚮スルト
コ口ヲ以テシ更ニ告テ曰ク我邦四圍環海國威

ヲ宏張シ國利ヲ増進スルニ海上ノ威權ヲ伸ハ
サハルヘカラス海軍ノ設備ハ方今ノ一大急務
トス幕府亦此ニ見ルアリ勝安房ヲシテ兵庫
ニ海軍所ヲ起サシメ大ニ海軍ヲ擴張スルノ企
畫アリ大夫須カラク志ヲ海上ニ立テ万里ノ波濤
ヲ開拓セサルヘカラスト維章說ヲ聞キ大ニ感
奮スルトコロアリ身ヲ挺シテ海軍ノ事ニ當ラ
ントノ志ヲ起シ龍馬ヲ介シ兵庫海軍所ニ入テ
シコトヲ約ス越テ數月海軍所ニ入ルノ約ヲ履
ミ龍馬ヲ旅舎ニ訪フ時ニ龍馬己ニ去リ會ヌ
ヲ得ヌ先是兵庫海軍所ニ入レル學生ハ多ク諸
國ノ有志者ト稱スルモノニシテ龍馬推サレテ
其首領タリ勝安房ト提携シ盡スモノ多シ爲ノニ

幕府ノ疑フ所トナリ安房ノ海軍奉行ヲ罷ノ東
歸ヲ命ス龍馬事ノ濟スヘカラサルヲ察シ後遊
ノ志士ヲ率ヒテ走ラ薩藩ニ投ス此ヲ以テ海軍
所ニ入ルノ志望ヲ遂クルヲ得ス
同三年八月藩命ヲ以テ國ニ歸ル時ニ藩始メテ
燕汽船ヲ購入シ軍艦トシテ海軍練習ノ用ニ供
ス十月其軍艦乗組ヲ命セラル長崎ニ航ス同港
ニ在ルノ間瓜生三雪芳川顯正前島密林清康等
ト共ニ駕籠所宗福寺ニ寓シ英書ヲ学フ幾モ十
ク陸奥宗光白峰駿馬ト交ル時事ノ日ニ非ナル
ヲ慨シ元治元年三月終ニ意ヲ決シ英書ヲ学フ
ヲ止メ自ラ藩籍ヲ脱シ居留地英國領事館ニ潛
伏シ機ヲ見テ出テ國事ニ盡スアラントス偶々

坂本龍馬馬關ヨリ來ルニ會シ共ニ國事ニ盡ス
ヲ約シ携テ鹿児島ニ走ル此歲幕府ノ長藩ヲ討
ツル龍馬等曩ニ長藩ヨリ托セララル所ノ汽船櫻
島丸ヲ長藩ニ還付セントシ馬關ニ至ルヤ幕兵
已ニ境ニ逼ル長藩兵寡キヲ以テ龍馬等其艦ヲ
以テ幕兵ト戦テ返ル已ニ鹿児島ニ至リ龍馬ト
共ニ西郷吉之助ニ面シ龍馬其馬關ノ戦況ヲ告
グ且ツ時局益迫ルヲ以テ留ラ共ニ盡スマラン
ヲ誓フ乃チ開成所長屋ニ投ス居ル月餘龍馬去
テ長崎及京阪ニ向フ偶々長岡諺吉亦藩ヲ脱シ
來ルニ會ス
慶應元年春坂本龍馬等ト約セルヲ以テ長岡諺
吉ト共ニ鹿児島ヲ脱シ長崎ニ出ツ龍馬ハ已ニ

去テ京師ニ向ッノ後タリ時ニ同志ノ士高松太郎白峰駿馬等風帆船ヲ購ヒ大阪ニ航セントスルニ會ス乃チ其行ヲ偕ニシ安岡金馬等亦馬關ヨリ行ヲ共ニス已ニ神戸ニ着ス船中唯駿馬アルノミ依テ留ル船中ノ事ヲ理シ兼テ時々京阪ニ潜行シ時勢ヲ觀察ス其年藩長崎ニ於テ脱藩ノ諸士ヲ宥レ歸藩セシム又海軍ノ同志海援隊ノ組織成ルヲ報ス依テ船章薩藩ノ旗ヲ改メ土藩ノ旗章ヲ樹ツ
其年四月ヨリ出テ神戸大阪京師ノ間ニ滞リ專ラ同志ノ間ニ奔走シカヲ國事ニ致ス
同三年秋阪本龍馬京師ヨリ書ヲ龍ニ時局益迫リ一戰ノ遞リヘカヲリルヲ以テ今度大和十津

川郷士五十餘名ヲ白川ノ藩邸ニ召集シ知ルヲ以テ來テ該兵ニ砲術ヲ訓練シ一旦緩急之ヲ率ヒテ盡スマルヘキヲ慫慂ス即チ京師ニ至リ邸ニ入り專ラ速成訓練ノ事ニ當ル其年十月徳川慶喜已ニ大政ヲ奉還スト雖凡其臣属及會津桑名ノ藩士等朝廷ノ慶賀ニ服セズ事變目撃ニ迫ル當時白川邸ニハ石川清之助田中光顯香川敬三等アリ專ラ該兵ノ統御ニ當ルアルヲ以テ該兵ノ操縦ニ三人ニ談シ維章ハ別ニ身ヲ海艦ニ托シ以テ大ニ盡ストコロアラントシ意ヲ龍馬ニ告テ歸辭シテ大阪ニ出ツ數モナリ阪本石川ニ氏河原所ノ寓ニ在テ刺客ノ害ニ遭フノ急報ニ接シ倉皇京ニ上ル實ニ十一月十五日十リ其時

新徴組ノ徒及本氏ノ黨上京報ヲ圖ルヲ防キ要
路ヲ扼シ警戒頗ル嚴ナリ同志路ヲ異ニシテ潜
行京ニ入り改本氏等ノ葬ヲ了リ高松太郎閨雄
之助白峰駿馬長岡謙吉大山壯太郎ト議シ襲ニ
紀藩ヨリ得タル以呂波丸一件ノ價金若干アル
ヲ以之ヲ内金トシテ長崎港英商ノコンホード
砲四門ヲ備フル砲艦ヲ購ヒ同港新所ノ藩邸ニ
在ルノ水火夫ヲ塔乗セシメ紀州沖ニ至リ幕艦
ヲ邀撃シ素志ヲ貫カント決シ閨雄之助菅野覺
兵衛大山壯太郎等ト京ヲ發シ神戸ヨリ英船ニ
乘シ急行長崎ニ至リ英商ニ就キ砲艦購入ヲ議
ス英商王師利アラスシテ其船價ヲ拂込マシム
ル能ハサルヲ懼レ十二万弗ヲ即時拂込マシム

ントス往復數次商議協ハス其間空シク數日ヲ
費シ復タ京師ノ戰期ニ及ビ能ハス依テ議シテ
長崎奉行河津伴豆ヲ襲ヒ以テ幕兵ノ鋒ヲ挫カ
ントシ之ヲ藩ノ重役佐々木三四郎ニ計ル略ボ
其同意ヲ得又去テ薩邸松方助左衛門ニ計ル未
タ遽カニ其同意ヲ得ル能ハズ然レ氏其意止ム
ヘカラズ乃チ日時ヲ期シ事ヲ舉ケントス伴豆
聞テ魯艦ニ逃カル維章等同志銃器ヲ携ヘ水炊
夫ヲ率ヒ西役所ヲ襲フヤ伊豆已ニ逃カシ幕吏
戰ハスシテ降ル(以時薩藩ノ士川端半助警備ヲ
破リ聞入ス閨雄之助撃テ之ヲ斃ス然レ氏其薩
藩士タルヲ以テ他日累ヲ二藩ノ交義ニ及ボス
ヲ恐レ其夜吉井源馬ト立會新所藩邸ニ於テ自

又セシム
明治元年春石田英吉等ト共ニ振遠隊ヲ組織シ
同年七月同隊ノ軍監ト爲リ東征ノ師ニ從ヒ興
羽ノ各地ニ轉戦シ十一月長崎ニ凱旋ス

裏面白紙

退職検事男爵野村維章履歴書

司法省

退職撫事正三位勳二等男爵野村維章

本籍 東京府東京市麹町区三番町

現任所 同上

明治元戊辰年四月

一當分振遠隊御用係、申付候事

長崎府

但庶順可為光田三郎石田榮吉之事

今 年七月

一振遠隊出陣、申付候事

今 年九月十六日

一參謀添役

角館分隊局

右、通申付候條、臨機に指揮、勿論戰策等專に致
委任且進退、舞令不誤、様精に可致、盡力事

司法省

猶振遠隊儀、是迄、通、指揮可有之事

明治元年十二月十八日

一今年七月、為奧羽賊徒追討、府兵出陣、砌、為軍
監出張預苦勞、候、度、萬端、指揮、不誤、其機、援
群、一勇、戰、不移、時、日、賊、徒、降、伏、候、度、不、堪、感、賞、依
之、乍、斬、其、品、進、之、候、事

一短刀 貳口

一金 貳千疋

一扇子 壹本

長崎府知事

但知事、讀、歌、アリ

今 辰年十一月

一於其隊、勵、兵士、軍機、令、為、其、節、候、候、金、其、方、勉
勵、神、妙、波、思、之、依、之、金、二千疋、下、賜、候、事

奥羽總督府

今 已 三月

一昨年四月振遠隊御用申付候以來未出格盡力殊
為奥羽進討遠路出陣波是勞苦不二方候處今
般願通り兼御用係差免候事

長崎府

今 已 五月

一巡察試補申付并之通月給被下之神奈川縣

今 已 六月

一昨年賊徒掃攘中軍事勉勵之般神妙被思召依為其
慰勞目錄通り下賜候事

行政官

目錄金四百円

今 已 八月

司 法 省

一御用係申付振遠隊掛相勤可申候事

長崎縣

今 已 九月

一兵隊御用係差免軍監申付候事

壬申 二月二十二日

一當今間祝砲掛并選兵御用係申付月給是迄通賜候
事

壬申 三月十八日

一依願免職候事

今 已

一勤仕中勵精候三付綱一匹官録一ヶ月分被下候事

壬申 四月二十八日

一任還率檢官

神奈川縣

壬申 七月廿六日

一九等出仕申付候事

壬申七月二十六日

一還卒権惣官之心得ヲ以テ可相勤事

壬申八月十六日

一任還卒権惣長

明治六年十月十六日

一轉任神奈川縣大属

全

一上等月給下賜候事

全

一庶務課長出内課長申付候事

今七年二月十二日

一任佐賀縣権参事

明治七年六月十四日

一敘正七位

今八年一月廿九日

一任佐賀縣参事

今八年二月廿四日

一敘從六位

今九年三月廿八日

一廢縣滿四年並勤績ニ付下賜候事

佐賀縣ヲ廢シ三潁縣ニ合併

金三百円

當時御用出京中ナルヲ以テ内務卿ヨリ元縣令故地島秀朝義ハ長崎縣令ニ任セラルヘキニ付舊縣事務引継ハ参事ニ於テ擔當スルニ旨達セラルニ依テ直ニ政佐賀参事ニ三潁縣ノ事務引継ニ従事ス而シテ東西松浦二郡ノ割ニ更

司法省

ニ長崎縣、可引建、命、受、依、諸帳簿、引分、等、頗、手
教、要、長、月、要、司、年、月、引、渡、御、用、相、濟、

但、同、月、迄、舊、官、俸、給、受、

明治九年九月大阪府下滞在、中、御、用、有、之、歸、京、可、致、上、月
電信、ラ、内、務、卿、被、相、達、直、改、京、御、用、滞、在、舊、官
俸、給、三、分、一、賜、

今九年四月六日

一、佐、賀、縣、下、是、動、除、書、方、候、付、為、其、賞、別、紙、目、録、通、リ
下、賜、候、事、
太、政、官、

別紙 縮緬代金百円

今十年一月廿二日

一、任、茨、城、縣、權、令、
廿三日

司 法 省

一、敘、正、大、位、

今十年七月廿五日

一、任、茨、城、縣、令、

日

一、月、俸、貳、百、円、下、賜、候、事、

今十二年十一月十五日

一、敘、從、五、位、

今十三年二月九日

一、多、年、奉、職、勲、勵、候、付、自、今、月、俸、五、十、円、増、給、候、事、

今 年 三 月 八 日

一、任、檢、事、

日

一、年、俸、二、千、四、百、円、下、賜、候、事、

全十三年四月二日

一大審院結被仰付候事

司法省

全十三年十二月十七日

一宮城上等裁判所結々候事

司法卿

全十四年八月六日

一茨城縣令奉職中地祖改正事務勉勵候々為其賞別
紙目録之通リ下賜候事

太政官

目録縮緬貳疋

全十五年十月二十四日

一宮城控訴裁判所檢事長々候事

司法卿

全十五年六月廿六日

一敘勲五等雙光旭日章ヲ授與

全十六年十一月十五日

司法省

一大阪控訴裁判所檢事長々候事

司法卿

明治十六年十二月四日

一自今年俸三千円下賜候事

太政官

全十七年七月四日

一大阪控訴裁判所管内甲部巡視々候事

司法卿

全十九年五月四日

一勅令第四十號ヲ以テ裁判所安制ヲ定メラル

全二十年五月十日

一任大阪控訴院檢事長

全二十年五月十日

一敘奏任官事

全二十年七月十日

一任東京控訴院檢事長

令

一敘勅任官二等賜下級俸

令 年十月廿八日

一敘從四位

令 二十一年五月廿五日

一任丞館控訴院長

令

一敘勅任官二等賜中級俸

令 年五月廿七日

一敘勅四等旭日賜七級章

令 年六月廿日

一明治十八年六月洪水之節大阪府下罹災者、金二十円施照候
叙奇特、付与貴木杯老個下賜候事

司法省

明治廿二年十二月廿六日

一敘勅三等賜瑞宝章

令 廿二年八月三日

一賜上級俸

令 廿三年八月廿一日

一任大阪控訴院檢事長

令 年十月十八日

一勅令第百五十四號依於事

令 年十月三十日

一敘勅任官二等賜上級俸

令

一補大阪控訴院檢事長

令 廿四年八月十六日

一勅令第百三十四條ニテ年俸三千五百円
令廿五年二月十三日

一敘正四位

令廿五年二月十四日

一補東京控訴院檢察長

令廿五年二月十四日

一前職事務總長ニテ大阪控訴院ニシテ長々令
令廿五年二月二十日

一勅令第百九十六條ニ依リ高等官ニ等
令廿七年四月一日

一官寺俸給令改正ニ依リ三級俸
令廿八年十月廿二日

一陞敘高等官一寺

明治廿九年六月三十日

一敘勳二等授瑞宝章

令三十三年三月二十日

一敘從三位

令三十三年六月二十八日

一退職令

令三十三年九月十九日

一恩給年額金千貳拾貳円

令三十三年九月二十日

一特旨ヲ以テ位一級改進

一敘正三位

令卅三年五月九日

一依勳功特授男爵

司法省



司法省